

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成26年10月16日 (2014.10.16)

【公表番号】特表2014-505010(P2014-505010A)

【公表日】平成26年2月27日 (2014.2.27)

【年通号数】公開・登録公報2014-011

【出願番号】特願2013-529343(P2013-529343)

【国際特許分類】

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

A 6 1 K 38/46 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/14 (2006.01)

A 6 1 P 25/18 (2006.01)

A 6 1 P 25/28 (2006.01)

C 1 2 N 15/01 (2006.01)

【F I】

C 0 7 K 14/47 Z N A

A 6 1 K 37/54

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 25/14

A 6 1 P 25/18

A 6 1 P 25/28

C 1 2 N 15/00 X

【手続補正書】

【提出日】平成26年8月29日 (2014.8.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

S T E P 蛋白質の K I M ドメインおよび K I S ドメインからなる分離されたペプチドにおいて、前記 K I M ドメインおよび K I S ドメインにおける少なくとも一つのリン酸化部位を、この部位におけるリン酸化を防止するように修飾したことを特徴とする分離されたペプチド。

【請求項 2】

前記 K I M ドメインのセリン残基を構成活性のペプチドに突然変異させた請求項 1 に記載の分離されたペプチド。

【請求項 3】

前記セリン残基をアラニン残基で置換した請求項 2 に記載の分離されたペプチド。

【請求項 4】

内因性 S T E P 蛋白質よりも安定なペプチドに前記 K I S ドメインのスレオニン残基を突然変異させた請求項 1 に記載の分離されたペプチド。

【請求項 5】

内因性 S T E P 蛋白質よりも安定なペプチドに前記 K I S ドメインのセリン残基を突然変異させた請求項 1 に記載の分離されたペプチド。

【請求項 6】

前記 K I S ドメインのスレオニン残基およびセリン残基を突然変異させた請求項 1 に記載の分離されたペプチド。

【請求項 7】

前記 K I M ドメインのセリン残基を突然変異させた請求項 4 に記載の分離されたペプチド。

【請求項 8】

さらに、前記ペプチドを細胞透過性にするように構成された領域を有する請求項 1 に記載の分離されたペプチド。

【請求項 9】

前記ペプチドを細胞透過性にするように構成された前記領域が T A T ドメインである請求項 8 に記載の分離されたペプチド。

【請求項 10】

さらに、観察可能なマーカーとして作用するよう構成された領域を有する請求項 1 に記載の分離されたペプチド。

【請求項 11】

観察可能なマーカーとして作用するよう構成された領域が m y c 領域である請求項 10 に記載の分離されたペプチド。

【請求項 12】

S E Q I D . N o . 4 , 8 , 10 または 11 からなる群れから選択される請求項 1 に記載の分離されたペプチド。

【請求項 13】

過剰なグルタメートの作用から発症する脳損傷の作用を治療または緩和するために使用され、静脈注射により患者に送り込まれる請求項 1 ～ 12 のいずれか 1 項に記載の分離されたペプチド。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】配列表

【補正方法】変更

【補正の内容】

【配列表】

20145050100000001.app